

つなげる・ひろげる・そだてる学校図書館

第4章



参 考 事 例

- *学校体制で取り組む学校図書館活用
- *就学前の読書活動
- *小・中・高・特別支援学校の授業活用例
- *市町村の学校図書館支援



児童の主体的・意欲的な学びのための学校図書館活用

～ 学校全体で学校図書館活用に取り組むために ～

小学校

◆学校図書館運営委員会

- 学校図書館の目的（「教育課程の展開に寄与する」「児童生徒の健全な教養を育成する」）をふまえ、学校組織として学校図書館の効果的な活用を推進するため、年間2～3回実施し定期的に評価、改善をする。
- 学校図書館運営委員会の主な内容
 - ・学校図書館の実態（活用状況等）、課題
 - ・学校図書館活用の目標と運営計画
 - ・研究主題につながる学校図書館の在り方 等
- メンバー構成
 - ・校長、教頭、教務主任、司書教諭、学校司書（事務職員、PTA代表 読書ボランティア代表等）



児童が大好きな図書館での授業

◆校内研究との連携

- 学校教育目標の達成、研究主題のもとでの実践研究と結び付いた学校図書館活用の工夫
- 「学習センター」としての役割
学校図書館図書標準の達成
- 「読書センター」としての役割
読書活動の推進 適切な選書
- 「情報センター」としての役割
- 家庭との連携、PTAとの連携
家読、ノーマディア等との連動
- 読書ボランティアとの連携
- 中学校区での共通実践にかかわる取組

◆教育評価

- ◆ 学校図書館の活用状況を、担任、授業担当者に情報提供する。（利用回数、貸出冊数、貸出の多い図書等）
- ◆ 学習資料として活用した図書リスト（学年、教科等、活用した月、書名等）を作成し、次年度に活用する。
- ◆ 学校評価の評価指標に「学校図書館の活用」に関する内容を入れる。
- ◆ 児童自身が自分の読書活動を振り返るための手だてを工夫する。（読書記録、カード等）

◆校長として

- 校長は学校教育目標の達成に向かって、学校図書館の活用を教育課程に位置づけるよう全教職員に共通理解を図り、司書教諭を中心に学校図書館の活用を推進する。
- 校長は学校図書館を開かれた場所として学校の中核に据え、教職員が学校図書館に足を運び、教育課程の様々な場面で活用できるように環境を整備する。
- 校長は学校図書館活用の実態について継続的に情報発信できるようにし、不読率を引き下げる取組を推進する。

これからの学びを支える学校図書館

～ 学校全体で学校図書館活用に取り組むために～

中学校

◆校長のリーダーシップ

- 校長は、学校教育目標や学校経営方針の達成・実現に向けて、学校図書館活用をどのように教育課程に位置づけるかを明確にする。
- 学校図書館の重要性について、全職員に共通理解を図り、司書教諭を中心に、すべての教職員や学校司書等が役割分担し、協力して学校図書館活用の充実を図るよう努める。
- 学校図書館のひと(学校司書・ボランティア等)やもの(設備や資料・蔵書等)の環境整備・改善を推進する。

◆学校図書館運営委員会

- 学校組織として、チーム学校の協働体制を構築するためにも、司書教諭を学校司書もメンバーに加えた学校図書館運営委員会を設置する。
- 学校図書館活用が国語科や総合的な学習の時間等に偏らないよう、全教科・領域での活用を図る。
- そのためにも、学校図書館活用年間計画を作成し、学校図書館運営委員会で定期的に評価・改善を図りながら着実に実施する。



図書委員によるクリスマスの絵本の読み聞かせ

★学校図書館の役割

- ◇ 学校図書館は従来の役割に加え、言語活動等の充実による授業改善に活用することや、悩みを抱える生徒にとっては教室とは異なる「心の居場所」ともなることも考えられる。
その意味でも、学校図書館の役割は大きなものと言える。

◆校内研究との連携

- 学校図書館は、学校における言語活動や探求活動の場となり、「アクティブ・ラーニング」の視点からも普段の授業改善を支援していく役割を持っていることを再認識する。
- 本や学校図書館の利活用方法などの教職員研修を実施し、全教科・領域で授業の一環とした調べ学習等での学校図書館活用を促進する。
- 司書教諭や学校司書と連携し、学校図書館を活用した TIT の授業を積極的に取り入れる。

教職員が協働的に行う「自ら学ぶ力」の育成

～ 全体で学校図書館活用に取り組むために ～

高等学校

◆図書館運営委員会

【構成】副校長、教頭、事務長、図書部専任（司書教諭、教諭、学校司書）、各教科の図書係

【目的】学校教育目標を踏まえた学校図書館の在り方を協議し、運営計画や具体的な活動内容を決定する

【事業】①図書館運営計画 ②図書館資料の選定・購入・管理・活用 ③教科・分掌等の図書館利用 ④学校図書館活用シラバス ⑤生徒図書委員会の活動 ⑥資料相談（レファレンス） ⑦図書館活用に関する調査・研究・報告 ⑧図書館だより・HP 等での広報

◆教科や分掌と連携した図書館活用の推進

- ① 図書館活用の推進体制
 - ・職員会議、図書館運営委員会等を通じた図書館活用の促進
 - ・図書館教育に関する教職員の研修、研究活動の実施
- ② 図書館を活用した学習の充実と情報活用能力の育成
 - ・授業者、司書教諭、司書が連携した授業計画の作成
 - ・図書館を活用した授業の促進と、司書教諭、司書による情報活用ガイダンスの実施
 - ・地域の図書館と連携した相談・貸出サービス等の活用
- ③ 生徒の興味関心を引き出す工夫と利用しやすい環境づくり
 - ・生徒図書委員会によるイベントや企画展示の実施
 - ・授業や分掌が企画する行事等と連動したイベントや企画展示の実施
 - ・生徒や職員のニーズを反映させた組織的な選書と環境整備
- ④ 効果的な啓発活動
 - ・教科や分掌と連携した、図書館の広報物による読書啓発活動
 - ・授業と連動した「情報の探し方・活用ガイド」や「ブックリスト」等の作成、配布
 - ・図書館を活用した授業実践の校内外への発信（HP掲載等）



図書館での探究型授業

★教育評価

学校自己評価表に図書館教育の重点目標や具体的方策を定め、年間計画に基づいて実践する。

年度末には図書館活用に関する調査をもとに達成状況を評価し、改善すべき事項を明確化して次年度の活動に活かす。

◆校長として

豊かな教養と知性を身に付けた生徒を育成する上で、知の情報センターとしての学校図書館の役割は大きい。高等学校では図書館運営目標を設定し、司書教諭と学校司書を中心に、書籍やメディア環境を整備して幅広く読書活動の啓発にあたるなど、図書館機能の向上と活用促進に努めている。その効果は授業や課題探究型学習の充実、読書習慣の確立、情報活用能力の向上等となって現われている。学校図書館は生徒の豊かな学びと確かな学力を支える土台である。

2歳児 実践事例 「はらぺこあおむし」になって遊ぼう (9月)
観点 (興味・関心) 視点 (表現 ~つたえたいな しりたいな~)

【遊びの経過】

友達や保育者との言葉のやりとりを楽しみながら、見立て遊びやつもり遊び、ごっこ遊びを楽しんできた。「はらぺこあおむし」の絵本に親しみ、あおむしの好きな食べ物や、あおむしがちょうちょになることを知り、イメージを膨らませてごっこ遊びを楽しむようになってきた。

【ねらい】

お話のイメージを膨らませ、友達や保育者と一緒に表現遊びを楽しむ。

【評価】

- 一人一人があおむしになって遊ぶ中で、知っていることやイメージしたことを伝えたり、友達や保育者とのやりとりを楽しんだりしている。

【〇幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

★あおむしの帽子をかぶり、気持ちを盛り上げていく。

★保育室の安全を確認する。

〇「はらぺこあおむし」になって遊ぶ。

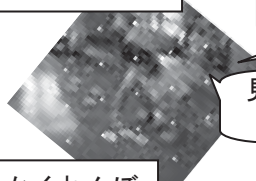
変身



あおむしさんは、
もももご動くで。
【表現】【思考】

先生、見て。
【喜び】【自信】

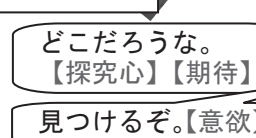
食べ物見つけ



食べ物を探そう。
【意欲】【願い】

見つけたよ。
【楽しさ】【喜び】

かくれんぼ



どこだろうな。
【探究心】【期待】

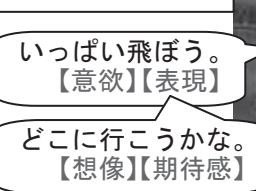
見つけるぞ。【意欲】



チョコレートだ。
食べよう。【喜び】

おいしいな。【表現】

ちょうちょに変身



いっぱい飛ぼう。
【意欲】【表現】

どこに行こうかな。
【想像】【期待感】

- 「あおむしは、どうやって動くのかな。」と問いかけ、一人一人の素直な表現を受け止めるとともに、褒めたり励ましたりしながら、興味をもてるようにする。
- 保育者も一緒にになりきって遊ぶことで、動きや言葉で表現する楽しさを伝え、子どもたちの表現する意欲を高めていく。
- イメージが膨らむよう絵本のお話にそって遊びを進める。

- ★食べ物カードを並べ、わくわくするような環境をつくる。
- ★様子を見て、保育者がチョコレートに変身し、かくれた保育者を探して見つける遊びに展開できるようにしておく。

- 保育者がモデルになり、遊び方を簡潔に分かりやすく伝えた上で、食べ物カード探しをし、遊びへの意欲を高めていく。
- 子どもたちのわくわくする気持ちに寄り添い、一人一人の声に共感的な言葉で応えていくようにする。その際、保育者の言葉が多くならないようにする。
- 食べ物カードを見つけたら、食べる真似をしたりして自分なりに楽しんで表現する姿を受け止め、満足感を引き出すようにする。

- ★イメージがふくらむよう、変身用のちょうちょの羽を準備しておく。

- 「あおむしは、いっぱい食べて大きくなったら何になるのかな。」と問いかけ、子どもたちの「ちょうちょになる。」という言葉を引きかけに、みんなでちょうちょに変身して遊び、表現の変化を楽しむようにする。
- 一人一人の子どもの発する言葉や思いを受け止め、喜びや満足感を共有していく。

【考察】

絵本に親しむことで、食べ物の名前やあおむしが成長していく様子を知り、イメージを膨らませながら体を動かし、思い思いの表現遊びを楽しむことができた。友達や保育者との言葉のやりとりや動きを楽しんでいる子どもたちの様子を見ながら遊びを展開していくことで、子どもたちは、あおむしになりきって意欲的に遊ぶことができた。また、その姿を褒め、励ましたり認めたりすることで、より開放感をもって自分の気持ちを表出し、遊びを楽しむ姿につながった。これからも子どもの動きを予想して環境の構成、再構成をしていき、自分なりに表現する楽しさを十分に味わうことができるような援助の工夫を考えていきたい。

5 歳児 実践事例 しずくちゃん 見つけた (7 月)
 観点 (興味・関心) 視点 (表現 ～つたえたいな しりたいたな～)

【遊びの経過】

生活や遊びの中で言葉の楽しさや美しさにふれさせたいと多くの絵本を紹介してきた。また、共通体験(遊び)をたくさん積み重ねることにより、意見を出し合ったり、会話を楽しんだりする姿が見られるようになった。そこで、大好きなプール遊びの前に絵本の読み聞かせをし、絵本の世界にみんなで浸れるような遊びをすることにした。

【ねらい】

自分の思いを伝え、イメージを膨らませながら、友達と遊ぶことを楽しむ。

【評価】

- 絵本の中に出てきた言葉を繰り返し話したり、しずくちゃんの真似をしたりして、友達と会話を楽しんでいる。

【○幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

- ★絵本を自分たちでいつでも見られるよう保育室に置いておく。
- ★子どもたちが選んだ絵本の中から、「しずくのぼうけん」の読み聞かせをする。

○「しずくのぼうけん」の絵本を見る。



次は、○○に行くよ。
【想像】【期待】

しずくちゃんに会いたいな。
【期待】【願い】

どんな話かな。
うれしいな。【喜び】

- 一人一人が「しずく」に興味をもちながら絵本を見られるよう、子どもの表情を見て、反応を確かめながら話を進めていく。
- 話の終わりに「しずくは、今度はどこに行くのかな。」とそれぞれが思いをめぐらせたり、イメージを広げたりできるように読み聞かせを終える。

- ★絵本の世界を体験できるようなプール遊びを設定する。

○プールの中でぐるぐる回って遊ぶ。



うわあ、洗濯機みたい。
【想像】【感動】

うわあ、流されそうだよ。【発見】

しずくちゃんみたい。
【発見】

しずくちゃん、目がまわらないのかな。
【疑問】

- 生活の中で、しずくを意識して、思ったことを伝えようとする姿を丁寧に受け止め、かかわっていく。
- 個々の気付きやイメージした言葉をまわりの子どもたちと共感できるように言葉かけをする。

○プールからあがり、シャワーを浴びる。



あっ、しずくちゃん、見つけた。
【発見】【喜び】

しずくちゃん、タオルで拭いたら、いなくなった。【発見】

流れて、どこかに行っちゃった。
【心配】

冒険に行ったのかな。【想像】

雨が降りそうだよ。【気付き】

しずくちゃんが雲から落ちてくるかも。【想像】【期待】

- 保育者も一緒になって、体についたしずく見つけをする。
- 絵本「しずくのぼうけん」の内容と同じような場面に気付いて、友達に伝えている姿に共感し、一人一人のイメージが広がっていくようにかかわっていく。

【考察】

絵本を読んで以降、絵本と同じような場面に出会うと、「しずくちゃん、ここにいたよ。」と友達と話をし、これまでは気付かなかったり、感じなかったりしたことにも目を向けている姿が見られるようになった。しずくに思いを寄せ、ぼうけんする様子を自分なりに想像することで、生活や遊びの中での「しずく」との出会いを楽しむ姿につながったと思う。そして、絵本から広がるイメージの世界を友達と共有することで言葉の世界が広がり、会話を楽しむことができたように思う。

今後も絵本を通しての活動を取り入れ、言葉の世界を楽しみながら、イメージを広げ、遊びを楽しめるようにしていきたい。

「ふしぎなお話カード」をつくろう

～不思議な出来事が起きる物語を読もう～

3年 国語

「ゆうすげ村の小さな旅館」
資料の活用・読書指導

ねらい

- 不思議な出来事が起きる本を読み、物語のしかけを見つけながらお話を楽しむことができる。
- ブックトークを聞き、興味を持って読むことができる。

学習展開・・・・・・・・・・

- ① 「ふしぎなお話カード」と学習計画表を示し、単元の見通しを持つ。
- ② お話のしかけに興味がわくように、クイズを取り入れながら、不思議な出来事が起きる物語のブックトークを聞く。
- ③ 単元の学習と並行して読む本を選ぶ。
- ④ 読んだ本の中から物語のしかけを見つけ「ふしぎなお話カード」に記入する。



学校司書のブックトークを聞く



ふしぎなおはなしカードを展示

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 学校司書は、教員と相談し授業のねらいにそった本を複数揃える。
- 学校司書は、ブックトラックに不思議なお話コーナーを設け、教室での授業にもすぐに対応できるようにする。
- 司書教諭は、担任と学習計画や本の内容について打合わせを行う。
- 司書教諭と学校司書は、迷っている児童にアドバイスする。

★指導のポイント

- ◆ ブックトークで紹介した本だけでなくブックリストもあわせて作成しておく。
- ◆ 読んだ後に、本を紹介しあったり感想を聞きあったりすると、読書への意欲が高まる。
- ◆ 完成した作品は、本と一緒に図書館に展示し他学年へもつなげる。

資料

「つるばら村の洋服屋さん」ほかシリーズ/茂市久美子（講談社）、「トチノキ村の雑貨屋さん」/茂市久美子（あすなろ書房）、「白いぼうし」/あまんきみこ（ポプラ社）、「またたびトラベル」/茂市久美子（学習研究社）「ねこじゃら商店へいらっしゃい」/富安陽子（ポプラ社）、「かくれ山の冒険」富安陽子（PHP研究所）などファンタジーの要素を持った本

世界の物語をしょうかいしよう

～いろいろな国や地いきの物語を読んで、しょうかいしよう～

3年 国語
「はりねずみと金貨」
資料の活用・読書活動

ねらい

- 色々な国や地域の物語を読み、読んだおはなしのあらすじをまとめて紹介することができる。
- 物語の本は9類であることを知り、ラベルを見て調べる本の請求記号を書くことができる。

学 習 展 開

- ① いろいろな国や地域の物語を世界地図で確認し、興味をもつ。
- ② 物語は9類の本であることを確認し、「世界のおはなし」のブックトークを聞く。
- ③ 準備した「世界のおはなし」を何冊か読み、紹介したい本を探す。
- ④ 「しょうかいカード」を書いて、読んだ物語のあらすじをまとめて、友だちに紹介する。



児童が自由に楽しめる
「世界のおはなしコーナー」

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 学校司書は教員と相談して、あらすじがとらえやすい「世界のおはなし」絵本や物語の準備を市町村図書館と連携して行う。
- 「世界のおはなし」コーナーを作る。
- 学校司書は作品成果物を提供し、保存する。
- 司書教諭、学校司書は、どこの国のおはなしか本の中から探すことと、ワークシートを書く活動をT2、T3として支援する。

★指導のポイント

- ◆ 9類の本を使用するので、既習の9類を確認する。
- ◆ 分類記号を絵本と物語で分けている場合はそのことを伝える。
- ◆ ワークシートに請求記号を記入するラベル欄を設ける。
- ◆ 完成した児童作品は、図書館にも一部保存する。

資料

「とらとほしがき」/バク・ジェヒョン（光村教育図書）、「ディック・ウィットントンとねこ」/マーシャ・ブラウン（アリス館）、「ねこのくにのおきやくさま」/シビル・ウェタシンハ（福音館書店）、「かもさんおとおり」/ロバート・マックロスキー（福音館書店）、「はなのすきなうし」/マンロー・リーフ（岩波書店）、「銀のうでわ」/君島久子（岩波書店）、「小さい魔女」/プロイスラー（学習研究社）「ランパン パン」/マギー・ダフ（評論社）、「きりのなかのはりねずみ」/ノルシュテイン（福音館書店）、「ひやくにんのおとうさん」/譚小勇（福音館書店）、「金のさかな」/アレキサンドル・プーシキン（あかね書房）他

どうぶつひみつクイズをつくろう

～ 本でしらべて、本で答えをさがそう ～

2年 国語
「ビーバーの大工事」
資料の活用・利用指導

ねらい

- 動物のひみつを本の中から見つけ、疑問文とその答えの文を書くことができる。
- 動物の本は4類であることを知り、ラベルを見て調べる本の請求記号を書くことができる。

学 習 展 開

- ① 図書館に保存していた昨年度の作品成果物「動物ひみつクイズ」をプロジェクターで投影して動物クイズをし、興味づける。
- ② 司書教諭が動物の本のブックトークをする。動物の本は4類の本であることを押さえる。
- ③ クイズにしたい動物を決め、図書の中から自分が初めて知る動物の秘密を探す。
- ④ 司書教諭と学校司書は、T2、T3として情報収集に困っている児童を支援する。
- ⑤ 担任が、疑問文とその解答文の文型やワークシートの書き方を指導する。
- ⑥ 調べたことをクイズ（疑問文と解答文）にしてワークシートに記入する。



クイズにしたい事柄を調べる2年生

★指導のポイント

- ◆ 4類の本を使用するので、動物、昆虫の本の分類についてふれ、3年での分類指導につなげる。
- ◆ 図書館で学習し、4類の書架を確認する。
- ◆ ワークシートに、請求記号を記入するラベル欄を設ける。
- ◆ どうぶつひみつクイズ大会をし、図書を使って解答を探すための調べ学習を単元の後半に行う。

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 学校司書は教員と相談して、2年生が自力で読める資料準備を行う。
- 学校司書は作品成果物を提供し、保存する。
- 司書教諭は、クイズの紹介を行う。
- 司書教諭と担任はワークシートの形式について事前に話し合って作成する。
- 個別な配慮が必要と予想される児童について、事前に担任と打合せをしておく。

資料

「どうぶつの口」、「どうぶつの目」他シリーズ（偕成社）、「くべてみよう！ どうぶつの赤ちゃん」シリーズ（ポプラ社）、「おどろきと感動の動物の子育て」シリーズ（学習研究社）、「どうぶつのおやこ」シリーズ（岩崎書店）、「パンダの手には、かくされたひみつがあった！」/山本省三（くもん出版）他、動物の図書

いろいろな仕事について調べよう

～「なりたい自分新聞」を作ろう～

6年 総合的な学習の時間
「創る！これからのわたし」
資料の活用・利用指導

ねらい

- 自分の就きたい仕事について知りたいことを資料を使って調べ、新聞にまとめることができる。
- 必要な資料を選び、構成を工夫してわかりやすくまとめることができる。

学 習 展 開

- ① 仕事体験施設での体験と調べ学習で集めた情報とを整理して「なりたい自分新聞」を作ることを知らせ、調べ学習への意欲を高める。
- ② 仕事についての調べ学習には3類の本や、関係資料のファイルを使うことを押さえる。
- ③ 将来就きたい仕事について情報が載っている本を探す。
- ④ 調べたことを新聞様式のワークシートに記入する。→ワークシートをもとに新聞を作る。



授業に使用した資料とリストファイル



児童が作成した「なりたい自分新聞」

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 学校司書は、教員と相談して調べ学習に使用する資料を準備する。
 - ・公立図書館、近隣の学校図書館から借りる。
 - ・Webサイトの情報を印刷してファイリングしておく。
- 司書教諭、学校司書は、T2、T3として新聞作りを支援する。
 - ・役立つ資料を選んでいるか。
 - ・集めた情報をわかりやすくまとめているか。

★指導のポイント

- ◆ 3類の本を主に使用するので、分類について確認する。
- ◆ わかりやすいまとめ方の参考にパンフレット等も活用する。
- ◆ 完成した新聞は図書館にも1部保存する。

資料

「好きな仕事発見完全ガイド」シリーズ（学習研究社）、「お仕事ナビ」シリーズ（理論社）、「仕事の図鑑」シリーズ（あかね書房）、「やってみたいなこんなしごと」シリーズ（あかね書房）、「しごとば」シリーズ（ペリカン社）、「あこがれ仕事百科」（実業之日本社）他、職業についての書籍及び職業情報サイトを印刷したもの

鳥取県紹介パンフレットを作ろう

～県の主な産業や自然について調べてまとめる～

4年 社会
「鳥取県を調べよう」
資料の活用（郷土資料）

ねらい

- 鳥取県の自然・産業の主な特徴に興味をもち、自分の課題に沿って調べ、鳥取県紹介パンフレットを作るための大テーマを決めることができる。
- パンフレット、リーフレット、新聞記事などファイル資料の活用について知るとともに、パンフレットづくりの注意点を知ることができる。

学 習 展 開

- ① 担任は、昨年度児童の作品成果物「鳥取県紹介パンフレット」を紹介し、学習目標と単元の見通しを持たせる。
- ② 司書教諭が自作の「鳥取県紹介クイズ」をプレゼンソフトで投影し、鳥取県についての主な産業や自然に興味づける。
- ③ 学校司書が、ファイル資料等の図書以外の資料について紹介する。
- ④ パンフレット作成のポイントを押さえる。
- ⑤ 児童は、ワークシートに記入しながら、「農業」「観光」「水産業」「自然」などの大テーマから課題を選択する。



ファイル資料をもとに鳥取県パンフレットを作成

★指導のポイント

- ◆ パンフレット、リーフレット等の資料も図書館資料として調べ学習に使用できることをこの学習を機会に押さえる。
- ◆ 教材プレゼン、ワークシート、参考になる作品成果物は毎年保存し、次年度改訂して活用する。
- ◆ 県の観光DVD、JAホームページ等多様な資料も準備する。
- ◆ 学校司書と司書教諭は、日頃から県内のパンフレットや冊子を各公共機関や道の駅等で収集しておく。
- ◆ 次時には、小テーマの絞り込みを指導する。

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 司書教諭は昨年度までの作品成果物やワークシートをもとに教員と相談して、学習計画を立て、調べる方法、表現方法、必要な資料について事前に話し合う。
- 学校司書は作品成果物を提供し、保存する。
- 司書教諭は、鳥取県紹介プレゼンを作成する。
- 司書教諭と担任はワークシートの形式について話し合う。
- 次時以降に司書教諭と学校司書が調べる学習を支援する日程調整をする。

資料

「私たちの鳥取県」（鳥取県小学校社会科教育研究所）、「とっとりの農林水産業」（鳥取県農林水産部）、以下鳥取県発行リーフレット・パンフレット「鳥取観光ガイドマップ鳥取山陰」「ともに作ろう私たちの郷土」「食のみやこ鳥取県」「鳥取愛の味」「鳥取県はどこへ行っても楽しいゾ!」「鳥取ウェルカム!ガイド」、県立図書館発行郷土学習ガイド（パスファインダー）、新聞記事ファイル 他

はたらく犬について調べよう

～百科事典の使い方を知ろう～

3年 国語
「盲導犬の訓練」
利用指導・資料の活用

ねらい

- はたらく犬について疑問を持ち、いろいろな資料を活用して書かれていることを要約することができる。
- 百科事典の使い方を知り、自分の調べたい事柄を調べることができる。

学 習 展 開

- ① 電子黒板を使って、百科事典の実物を拡大提示しながら百科事典について説明する。
- ② 「背」「つめ」「柱」「索引」の使い方を押さえる。
- ③ ワークシートに書いてある事柄について百科事典を使って調べる。
- ④ はたらく犬について百科事典で調べ、ワークシートに書く。



電子黒板を使って百科事典の使い方を学ぶ



班に1セットの百科事典

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 学校司書は、百科事典をグループごとに1セットずつ準備する。(市町村図書館や近隣の学校と連携)
- 司書教諭は担任とワークシートの内容について打合わせをする。
- 学校司書は、電子黒板・プロジェクター・実物投影機等の準備を行い環境を整える。
- 司書教諭、学校司書は、調べる活動をT2、T3として支援する。

★指導のポイント

- ◆ 各巻から問題を作るなどワークシートを工夫すると、一斉に調べることができる。
- ◆ 学習にあわせ「はたらく犬の本」のコーナーを設けておく。
- ◆ 完成した作品は、図書館に展示した後、保存する。

資料

ポプラディア (ポプラ社)、「はたらく犬」シリーズ (学習研究社)、「しらべよう! はたらく犬たち」シリーズ (ポプラ社)、「しらべよう! はたらく犬たち」シリーズ (ポプラ社)、「盲導犬アンドリューの一日」/松井進 (ポトス出版)、「エルと過ごした9か月」/鹿目けい子 (国土社)、「被災犬「じゃがいもの挑戦」」/山口常夫 (岩崎書店) など

和の文化について調べよう

～目的に合わせて必要な情報を選ぼう～

5年 国語
「和の文化を受けつぐ」
資料の活用・利用指導

ねらい

- 複数の資料の文章や図表、写真などを、伝えたい事柄を意識して選んで読むことができる。
- 資料から必要な情報を引用したり要約したりして、情報カードにまとめることができる。

学 習 展 開

- ① 和の文化や地域の文化についての図書資料を紹介する。
- ② 情報カードのまとめ方を押さえる。(1枚につき1資料から1項目)
- ③ グループごとにテーマを決め、調べる観点をしぼる。複数の資料から調べたことを情報カードに記入する。
- ④ 情報カードを観点ごとに整理し、発表の準備をする。



複数の資料から情報カードにまとめる児童

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 学校司書は学級担任と相談し、和の文化に関する資料を準備する。
- 学校司書は市町村図書館と連携して、複本や学校にない様々な資料も準備する。
- 司書教諭は学級担任と、情報カードのまとめ方について確認する。
- 司書教諭、学校司書は、調べる活動をT2、T3として支援する。

★指導のポイント

- ◆ 和の文化は多岐にわたるので、事前に児童の調査対象について把握しておくとうい。
- ◆ 地域資料は数が少ないので、早めに準備に取りかかる。
- ◆ ABワンセット方式の単元構成の場合、図書館での学習がより効果的である。
- ◆ テーマごとのブックリストを作成し、次年度へつなげる。
- ◆ 発表資料を図書館に保存する。

資料

和の文化に関する図書の他にも、パンフレットやリーフレット、地域の広報、新聞ファイルなども日頃から準備し利用に対応できるようにする。
調べていく過程で必要な資料もでてくるので、その都度準備し提供していく。

社会科の学習に資料を使おう

～年鑑の使い方を知ろう～

5年 社会
「日本の農業」
利用指導

ねらい

- 社会科資料には様々な資料があり、標題、単位、出典、調査年等に気をつけて情報収集することが大切であることが分かる。
- 年鑑の使い方を知り、目的に応じて目次と索引を使い分けることができる。

學習展開 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

- ① 前学年までに既習した参考図書（図鑑、辞典、百科事典、白書、ファイル資料等）を確認する。
- ② 各種の年鑑を紹介し、興味づける。
- ③ 司書教諭は自作のパワーポイント教材を使って年鑑の使い方を指導する。児童は朝日ジュニア学習年鑑を一人ずつ持ち、実際にページを開きながら確認する。（目次 索引 大項目 中項目 小項目 標題 単位 統計年 出所の指導）
- ④ 児童は年鑑を使って調べ、ワークシートに記入する。
- ⑤ 使い方に不慣れな児童に対しては、担任、司書教諭、学校司書が個別に支援する。

[illegible]

年鑑指導のワークシート

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 学校司書は、朝日ジュニア学習年鑑を1グループごとに6冊（発行年の異なる冊子）ずつ、最低でも一人に1冊準備する（公共図書館や近隣の学校と連携）
- 学校司書は図鑑、百科事典、各種年鑑を準備する。
- プロジェクター・実物投影機等の準備を行い環境を整える。
- 司書教諭は年鑑の使い方指導のパワーポイント教材とワークシートを作成する。
- 司書教諭がT1、担任がT2、学校司書がT3として年鑑の具体的な使い方指導をする。
- グラフや表の読み方を個別に読み取る時に支援が必要と予想される事柄について、事前に担任・司書教諭・学校司書で打合せをしておく。

資料

「ポプラディア」(ポプラ社)、各種の図鑑・白書・国語辞典、「天文年鑑」(誠文堂新光社)、「ニュース年鑑」(ポプラ社)、「図書館年鑑」(日本図書館協会)など各種年鑑、「朝日ジュニア学習年鑑」(朝日新聞社)

おすすめ本を紹介しよう

～読書意欲を高める～

3年 英語
「ビブリオバトル」
資料の活用・読書指導

ねらい

- おすすめ本の紹介文の原稿を 100 語程度の英語で書き、発表することができる。
- ビブリオバトルにより、説得力あるプレゼンテーションを学び、読書意欲を高める。

学 習 展 開・・・・・・・・・・

- ① 活動の目標を理解し、モデル文から内容を確認する。
- ② ビブリオバトルの公式ルールや効果的プレゼンテーションについて学ぶ。(タブレットを利用)
- ③ 紹介する本を選定する。
- ④ 既習事項を活用しながら本の紹介文を書く。
- ⑤ グループで発表練習をし、グループの代表を選ぶ。



チャンプ本と紹介文を図書館に掲示



英語によるビブリオバトル

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 司書教諭と授業者は授業の流れを確認し、タブレットを効果的に取り入れる場面を考える。
- 司書教諭は効果的プレゼンテーションの工夫について伝える。
- 学校司書はビブリオバトルの公式ルールのシートを作り伝える。
- 司書教諭と学校司書は本の内容が適切にまとめられるよう T2、T3 で支援する。
- 学校司書はビブリオバトルの様子を写真に撮り紹介本と一緒に掲示する。

★指導のポイント

- ◆ 発表内容を構築する段階で、本の良さを多面的、多角的に捉える。
- ◆ 説得力ある構成や、表現の工夫をする。
- ◆ 友だち同士で発表し合い、アドバイスを伝え合うことができる。
- ◆ 様々なジャンルの本に関心を持ち、読書意欲を高める。

資料

「ビブリオバトル ハンドブック」(子どもの未来社)、「和英辞典」

本のポップを作って交流しよう

2年 国語
「本の世界を楽しもう」
読書指導・資料の活用

ねらい

- 読んだ本のポップを作って、その本のよさを伝えることができる。
- 情報を整理して、目的や意図に応じて効果を考えながら表現することができる。

学 習 展 開

- ① 書店や図書館にあるポップ、昨年までの生徒作品のポップを紹介する。
- ② 今まで自分が読んだ本の中から、ポップを作る本を選ぶ。
- ③ 本の内容の情報を整理して、ポップの見本や観光パンフレットなどを参考にして、効果を考えながらキャッチコピーやレイアウトを工夫する。
- ④ 完成したポップを使って友達に本を紹介し合う。



生徒が作ったポップカード

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 学校司書は授業者と相談して、多様な資料準備を行う。
- 学校司書は作品成果物を提供し、保存する。
- 司書教諭は、ポップの目的や効果の説明を行う。
- 司書教諭と授業者はワークシートの形式について話し合う。
- 司書教諭、学校司書は、ポップを作る活動をT2、T3として支援する。

★指導のポイント

- ◆ 書店や図書館内にあるポップを見本として紹介する。
- ◆ 図書以外の資料（広報紙や観光パンフレットなど）の存在にも目を向けさせ、活用する機会とする。
- ◆ 完成した作品は図書館にも保存し、展示する。

資料

朝日中高生新聞
各種広報紙（「県政だより」「市（町）報」）
各種観光用パンフレット・リーフレット

絵を言葉に、言葉を絵にしよう

～ 必要な情報を集めよう ～

2年 美術
「名画にチャレンジ」
資料の活用(情報の整理・表現)

ねらい

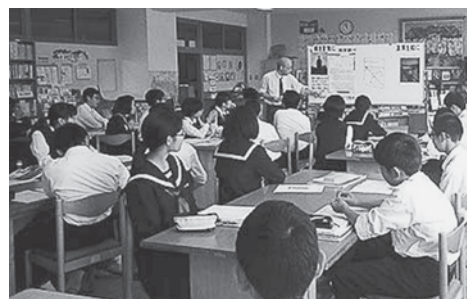
- 名画の模写を通して関心を持ち、その名画を自分の言葉で表現し鑑賞を深める。
- 絵画の特徴(技法・素材)、画家の生涯、時代背景などの視点で資料を探ることができる。

学 習 展 開

- ① 美術資料集の中から好きな名画を模写する。
- ② 図書資料を使い模写した名画の情報を探し、情報カードに書き出す。
- ③ 1冊の文献だけを鵜呑みにするのではなく、複数の文献を参考にすることを押さえる。
- ④ 集めた情報カードを整理分析し、名画を自分の言葉で紹介できるようまとめシートに書く。
- ⑤ 名画の紹介を聞き、その言葉を頼りに絵を描く。



美術資料を活用する生徒



図書館で美術の授業をする教科担任

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 学校司書は事前に生徒からレファレンスを受ける。自校にない資料は公共図書館や他校から借り入れ準備する。
- 司書教諭は授業者の情報カードの活用を提案する。
- 学校司書は他館から借りた有効資料を購入検討資料としてリストにあげる。
- 学校司書は授業者と協力して作品を掲示する。

★指導のポイント

- ◆ 画家名だけでなく絵の特徴や、年代で資料を探ることができる。
- ◆ 資料を丸写しせず、必要なことを抜き出し要約できる。
- ◆ 情報カードに参考文献の記入ができる。
- ◆ まとめシートの効果的構成・順番を考える。

資料

「101人の画家」/早坂優子(視覚デザイン研究所)、「教科書に出てくる日本の画家」シリーズ(汐文社)
「巨匠に教わる絵画の見かた」「巨匠に学ぶ配色の基本」「巨匠に学ぶ構図の基本」(視覚デザイン研究所)、
「印象派美術館」(小学館)、「ルネサンス美術館」(小学館)、「ちいさな美術館めぐり」シリーズ(G.
B.)「世界の名画」シリーズ(中央公論社)など

故事成語を調べよう

～ 4 コマ漫画『未来に残したい言葉』 故事成語編～

1 年 国語
「古典 矛盾」
資料の活用

ねらい

- 未来に残したいと思う故事成語について調べ、4コマ漫画にしてまとめることができる。
- 目的や意図に応じて多様な情報源を活用して、必要な資料を選ぶことができる。

学 習 展 開

- ① 図書館に作品として保存している、生徒の故事成語の4コマ漫画を紹介して興味づける。
- ② 故事成語の本を読み、故事成語に親しみ、未来に残したいと思う故事成語を各自、選ぶ。
- ③ 意味や用例を調べ、故事の内容の要点を押え、起承転結に気をつけて文章を作成し、4コマ漫画にして描く。
- ④ 作成した4コマ漫画を互いに見合って意見交換する。



故事成語を4コマ漫画にしたワークシート

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 学校司書は授業者と相談して、故事成語についての資料準備を行う。
- 学校司書は作品成果物を提供し、保存する。
- 司書教諭は、故事成語の4コマ漫画を紹介する。
- 司書教諭と授業者はワークシートの形式について話し合う。
- 司書教諭、学校司書は、調べる活動をT2、T3として支援する。

★指導のポイント

- ◆ 8類の本を使用するので、分類指導を軽く行う。
- ◆ 図書館で学習することで、8類の書架が確認できる。
- ◆ 完成した作品は、図書館にも一部保存する。

資料

「出典のわかる故事成語・成句辞典」/遠藤哲夫（明治書院）、「三省堂故事成語辞典」/金岡照光（三省堂）、「まんがで学ぶ故事成語」/八木章好（国土社）、「例解学習ことわざ辞典」（小学館）、「親子でおぼえる四字熟語教室」（KKベストセラーズ）、「漫画故事成語」（境港市観光協会） 他

「砂丘探究」に取り組もう

～探究のプロセスを習得しよう～

1年 総合的な学習の時間
「砂丘を知る」
資料の活用（郷土資料）

ねらい

- 砂丘の良さや砂丘に対する思いを伝えることができる。
- 多様な情報を活用しまとめることができる。

学 習 展 開

- ① 昨年の探究発表の映像をプロジェクターで紹介し、完成をイメージさせる。
- ② 多様な資料のブラウジングや、マンダラート法で考えを広げてからテーマを見つける。
- ③ テーマの設定理由、研究内容、研究方法、具体的な計画をワークシートに記入する。
- ④ 調べた内容を効果的に伝えられる発表方法でまとめる。（新聞、ポスター、パワーポイント等）
- ⑤ 発表し評価する。



砂丘についての多様な資料を参考にする生徒



鳥取砂丘について調べた生徒の学習成果物

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 司書教諭は学年主任や授業者と、まとめるポイント、ワークシートについて話し合う。
- 司書教諭はテーマ決めの方法を提案する。
- 学校司書は、学年主任から事前に授業計画を確認し、配布資料を保存する。
- 学校司書は多角的な資料を収集する。
- 学校司書はパスファインダーを作成する。
- 司書教諭、学校司書は T2、T3 で支援する。

★指導のポイント

- ◆ パスファインダーで各種情報資源や探索方法を知る。
- ◆ 新聞記事、パンフレットなどの最新の情報にも関心を持つ。
- ◆ マンダラートを使い、考えを広げてからテーマを決めていく。
- ◆ 郷土資料コーナーを確認する。
- ◆ 情報モラルを守る。

資料

「パークガイド鳥取砂丘」（自然公園財団）、「砂丘伝説」（リヨン社）、「鳥取砂丘まるごとハンドブック」（鳥取砂丘検定実行委員会）、「国立公園鳥取砂丘の生きもの」（鳥取出版企画室）、「地形の大研究」（PHP 研究所）、「砂漠の大研究」（PHP 研究所）他 山陰海岸ジオパーク、砂丘観光などのパンフレット・リーフレット 砂丘の新聞記事

新聞記事をスクラップしよう

～写真や図表の効果を見つけよう～

1年 国語
「根拠を明確にして書こう」
資料の活用（新聞）

ねらい

- 新聞記事にある写真や図表の効果について、自分の意見を根拠を明確にして書くことができる。
- 新聞を読む習慣を身に付け、新聞を情報の一つとして活用することができる。

学 習 展 開

- ① 掲示した新聞を見ながら、トップ記事・見出し・リード文・広告・版・キャプション・面名など「新聞のしくみ」を説明し、新聞用語の確認をする。
- ② 持参した興味のある記事を切り抜き、ワークシートに貼付した後、見出しやキャプションを抜き書きする。
- ③ その記事が伝えたいことは何か、それに対して写真や図表は効果的かどうか、各自の考えを意見交換する。
- ④ 写真や図表の効果について、複数の観点から根拠をまとめ、意見文を書く。



新聞を授業に活用する生徒



写真や図表の効果について意見交換をする生徒

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 学校司書は授業者と相談して、資料準備を行う。
- 司書教諭は、「新聞のしくみ」を説明する。
- 司書教諭、学校司書は、見出しやキャプションを書き抜いたり、記事の内容を理解したりする活動をT2、T3として支援する。

★指導のポイント

- ◆ 新聞は複数の新聞社の新聞を準備する。
- ◆ 切り抜く記事は、生徒が家から持ってくる。
- ◆ 図書館で学習することで、複数の新聞社の記事を比べたり、過去の記事を調べたりできる。

資料

図書館所蔵の新聞（全国紙：毎日新聞、朝日新聞 地方紙：日本海新聞）
生徒が持参した各種新聞

ひとを通して本を知る

～ビブリオバトルとブックトーク～

1年 特別活動
「ロングホームルーム」
資料の活用・読書指導

ねらい

- ビブリオバトルのやり方を知り参加することができる。
- 他者の紹介から、さまざまなジャンルの本に興味を持ち、いろいろな分類の書架で本を探すことができる。
- 分類番号など書誌情報を的確に扱うことができる。

学 習 展 開

- ① 担任、副担任、司書教諭によるビブリオバトル。一人3分以内でおすすめ本を紹介する。本は全員が見やすいように展示する。
- ② 生徒は配布してあるワークシートの、ビブリオバトル投票欄で投票する。チャンプ本は後日紹介、展示する。
- ③ 学校司書によるブックトークをし、紹介し終わった本は①と同様に展示する。
- ④ 生徒はワークシートのブックトーク感想欄に感想や興味を持った本について記入する。
- ⑤ 生徒は館内を自由にブラウジングする。授業者は、生徒が展示している紹介本を見たり、これまで見たことがなかった書架で本を探したりするように声がけする。



ブックトークをする学校司書



ビブリオバトルの場の設定

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 学校司書と司書教諭は各担任、副担任と打ち合わせをして、今回使用する本の準備をする。
- 学校司書はブックトークの準備をする。
- 司書教諭はLHRの司会進行を行う。
- 学校司書と司書教諭はビブリオバトルの集計結果の発表とチャンプ本の展示をし、また、ブックトークの感想等をまとめて図書通信等で紹介する。

★指導のポイント

- ◆ ビブリオバトル、ブックトークで紹介する本のジャンルが偏らないよう事前に打ち合わせる。
- ◆ 分類番号と館内の書架の位置についても紹介する。
- ◆ ワークシートに、紹介された本の請求記号を記入する欄を設ける。

資料

「ビブリオバトルを楽しもうーゲームで広がる読書の輪ー」
(粕谷亮美著・谷口忠大監修／さ・え・ら書房)

読書の贈り物

～テーマを決めてブックトークをしよう～

国語表現

「読書の贈り物」

資料の活用・ブックトーク

ねらい

- ブックトークのやり方を理解し、自分でテーマを決めて本を選び、紹介シナリオを書くことができる。
- テーマに合った本を検索し、探すことができる。
- 評価の観点を理解して、ブックトークを聞くことができる。

学 習 展 開

- ① 教科担当教員が授業の流れと、発表方法・評価の観点等を説明する。学校司書と司書教諭がブックトークを行い、ブックトークとはどういうものかを知らせる。
- ② 生徒各自がテーマを決めて、図書館内から 3 冊の本を選び読む。
- ③ 生徒は紹介のシナリオを作り、全員の前で発表する。
- ④ 生徒は発表毎に評価シートに記入する。自分自身の自己評価も書く。
- ⑤ 教科担当教員が評価結果を生徒に返す。
- ⑥ ブックトークに使った本はテーマを添えて館内に展示する。



ブックトークで使った本の展示と生徒の作品

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 学校司書と司書教諭は相談してブックトークを行う。
- 学校司書と司書教諭は教科担当教員と相談し、評価シート等の資料を準備する。
- 司書教諭は教科担当教員と協力し、生徒のテーマ設定、シナリオ書きの支援を行う。
- 学校司書と司書教諭は、図書館での生徒の本の検索を支援する。

★指導のポイント

- ◆ 文学のみに偏らないように 3 冊の本のバランスを考えさせる。
- ◆ 実物提示、歌や朗読、クイズなどもブックトークの要素であることを知らせる。
- ◆ 評価シートは内容(テーマ、選んだ本、シナリオ)、表現(発表の仕方、工夫)で評価し、感想欄も設ける。

資料

「はじめよう学校図書館 9 読書イベントアイデア集〈中・高校生編〉」

(高見京子著／全国学校図書館協議会)

英語で地域を紹介しよう

～学校所在地域の紹介～

コミュニケーション英語Ⅰ
「英語で地域を紹介する」
資料の活用（郷土資料）

ねらい

- 英語で学校所在地域の特徴や町内の好きなもの（こと、人）を紹介することができる。
- 様々な郷土資料を調べて、ワークシートに英語でまとめたり、写真や絵を使ったりして発表することができる。

学 習 展 開

- ① 教科担当教員が、授業の流れを説明する。
まずは生徒各自が、地域の中で特徴的だと思うことや好きなものについて考え、ワークシートに書き出す。
- ② 次に、用意してある郷土資料を利用して、自分が紹介したい地域の特徴や好きなもの（こと、人）について調べ、紹介用ワークシート（英文）に記入し、絵や写真などを用意する。
- ③ 生徒はワークシートをもとに、絵や写真などを使って英語で発表する。
- ④ 完成したワークシート、絵、写真は郷土資料とともに図書館に展示する。



郷土資料を使って調べる生徒

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 学校司書は教科担当教員と相談して授業の手法や教材研究についての情報提供、生徒が使用する資料の準備を行う。
- 司書教諭は教科担当教員とワークシートの形式や発表の仕方について相談し、学校司書とともに配布物の準備を行う。
- 学校司書は、生徒の活動を教科担当教員、ALTとともに、T3として支援する。

★指導のポイント

- ◆ 授業では、図書館内の広いスペースに郷土資料を展示し、生徒が利用しやすいよう工夫する。
- ◆ 自治体の発行しているパンフレットや観光用リーフレットは、日本語版英語版のものを収集しておく。
- ◆ 英和、和英辞書も複数準備する。

資料

『北栄見聞楽』（北栄町観光協会 平成24年）

『とっとり〇美味しい』（「とっとり〇美味しい」刊行会／編 鳥取県教科図書販売 2002年）等

和歌の心を表現しよう

～和歌に込められた心情をポスターで表現～

1 年 国語総合
「和歌～万葉集・古今集・新古今集～」
資料の活用（表現活動）

ねらい

- 和歌に込められた心情をポスター化して表現することで、文法的な解釈だけでは理解しにくい表現の奥深さや心情を感じ取ることができる。
- 和歌に込められた心情をどうとらえたかを、視覚化したポスターをもとに話し合い、ワークシートに言語化し、発表することができる。

学 習 展 開

- ① 教科担当教員がポスター作製の目的と手順について説明し、グループごとに担当する和歌を決定させる。
- ② 学校司書が事前に作製したポスターのサンプルを提示して生徒に創作イメージを共有させ、資料の使い方を説明する。
- ③ 生徒は資料を使い、グループで話し合いながらポスター(1 部)を完成させる。
- ④ 生徒はグループで、和歌に込められた心情をどうとらえてポスター化したのかを話し合って言語化し、ワークシートに書く。
- ⑤ グループごとにポスターを提示しながら発表する。

ポスターの 構成要素

- ・和歌
- ・現代語訳
- ・写真
- ・キャッチコピー

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 学校司書は教科担当教員と相談して授業の手法や教材研究についての情報提供、生徒が使用する資料やサンプルポスターの準備を行う。
- 学校司書は生徒の活動をT2として支援する。完成したポスターと和歌に関連した資料を図書館に展示する。
- 司書教諭は教科担当教員と、グループ活動と発表に活用するワークシートの形式を話し合う。

★指導のポイント

- ◆ 和歌の解釈についての資料、イメージ化を助ける写真集等の資料、紙や文具等必要な物品を十分に用意する。
- ◆ ワークシートには、選んだ写真と和歌との関連性やキャッチコピーに込めた和歌の心情、グループでの話し合いの効果などを書く。

資料

『新編和歌の解釈と鑑賞事典』/井上 宗雄；武川 忠一（笠間書院）
『夜明け』（新装版）/山内悠（赤々舎）
『土門拳 風貌』/土門 拳（小学館）

季節感の比較と考察

～「春はあけぼの」と同時代和歌を比較しよう～

古典
「春はあけぼの」
資料の活用（探究型学習）

ねらい

- 「春はあけぼの」と同時代の和歌集(図書館資料)を読み比べ、季節感について考察し、ワークシートに書くことができる。
- 探究型学習のプロセスの中の「比較」の思考パターンを身に付ける。
- キーワードから和歌集の目次、索引を引くことができる。

学 習 展 開

- ① 教科担当教員が授業の目的と流れ、ワークシートの書き方、キーワード等の説明をする。
- ② 図書館でガイダンスを行う。学校司書と司書教諭が、キーワードから目次・索引を使って探す方法、比較の思考(ベン図)について説明する。
- ③ 生徒は資料の中から和歌を二首選び、季節感について考察する。それを、「春はあけぼの」の季節感と比較し、ワークシートに記入する。
- ④ 生徒の書いたワークシートを印刷配布し情報共有する。またスクリーンに投影して、教科担当教員が、共通点・相違点・時代背景について解説する。



図書館活用による探究型学習

★指導のポイント

- ◆ 探究型学習のプロセスの中で「思考する力の育成」のみに注目し、その中でもさらに「比較」の思考パターン練習に絞って、スモールステップで実施する。
- ◆ ホワイトボード、スクリーンを有効活用し、生徒の情報共有、情報の見える化を心がける。

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 学校司書は教科担当教員と相談して授業の手法や教材研究についての情報提供、生徒が使用する資料の準備やワークシート、ブックリスト等の配布物の準備を行う。
- 学校司書と司書教諭は教科担当教員と今回学習する探究型学習スキルについて打ち合わせ、ガイダンスの準備をする。
- 学校司書は、生徒の活動をT2として支援する。

資料

「6 プロセスで学ぶ中学生・高校生のための探究学習スキルワーク」桑田てるみ編（全国学校図書館協議会）
新日本古典文学大系5・6・7・8・11・19巻（岩波書店）新編国歌大観第1巻勅撰集編（角川書店）
新潮古典文学アルバム古今和歌集（新潮社） 和漢朗詠集 川口久雄／全訳注（講談社学術文庫）

資料を活用して意見文を書く

～ 筆者の意見をふまえ、テーマを決めて、資料を調べ、
自分の考えをまとめる ～

現代文
「命は誰のものなのか」
資料の活用（情報活用）

ねらい

- 複数のテーマの中から自分の興味のあるものを選び、著者の意見をふまえながら資料を調べ、読むことができる。
- 情報カードを活用して自分の考えをまとめるのに必要な情報を取捨選択し、意見文シートを使って自分の考えを書くことができる。

学 習 展 開

- ① 生徒は、「命は誰のものなのか」（柳澤桂子）を学習し筆者の意見を把握する。
- ② 教科担当教員は「命」についての複数のテーマをあげて紹介し、生徒にどれか一つのテーマを選んで、筆者の意見をふまえながら自分の考えをまとめて意見文を作成するという授業の流れを説明する。
- ③ 同じテーマを選んだ生徒でグループを作り、資料を調べて情報カードに必要な情報を書き抜く。次に意見文シートに記入して意見文のひな型を書き、原稿用紙に清書する。
- ④ グループ内で原稿を発表し、代表を選ぶ。次に全体でテーマ別代表の発表会をする。

「命は誰のものか」
関連テーマ

- ・ 脳死
- ・ 臓器移植
- ・ ドナー
- ・ 安楽死
- ・ 尊厳死
- ・ 終末期医療
- ・ 再生医療
- ・ クローン

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 学校司書は担当教員と相談して授業の手法や教材研究についての情報提供、生徒の使用するテーマごとの書籍や新聞の切り抜き、パンフレットなど様々な資料準備を行う。
- 学校司書と司書教諭は担当教員と話し合って、情報カードと意見文シートを作成、準備する。
- 学校司書は、生徒の調べ学習をT2として支援する。

★指導のポイント

- ◆ 司書教諭は情報カードの書き方、資料の読み方（大まかな内容把握の仕方、拾い読み、探し読み）意見文シートの書き方等を生徒の実態に応じて分かりやすく説明する。
- ◆ どの程度まで資料を用意するか、学校司書、司書教諭、担当教員でよく打ち合わせる。

資料

「6ステップで学ぶ中学生・高校生のための探求学習スキルワーク」桑田てるみ編（全国学校図書館協議会）
「14歳からわかる生命倫理」雨宮処凛著（河出書房）「いのちの選択」小松美彦著（岩波ブックレット）
「脳死・臓器移植Q & A 50」臓器移植を問い直す市民ネットワーク（海鳴社）新聞記事等

マルチメディア DAISY 図書に親しもう

～ DAISY 図書の使い方を知ろう～

知的障がい 全学部
生活単元学習
読書活動・利用指導

*マルチメディア DAISY 図書とは、印刷物を読むことが困難な人のために開発された電子図書のことで、ニーズに応じて文字の大きさや読みの速度などをカスタマイズできる。

ねらい

- 興味・関心のあるマルチメディア DAISY 図書（以下、DAISY 図書）を選び、読書する。
- DAISY 図書の使い方を知る。

学 習 展 開

- ① DAISY 図書をプロジェクターでスクリーンに投影し、全員で視聴する。
- ② 文字の大きさや色、音声スピードなどが自由に設定できることや音声で読まれている部分がハイライトされることなどを紹介する。
- ③ 個々に興味・関心のある DAISY 図書を選び、パソコンを使って、自分の読みやすい設定にし、読書をする。
- ④ 同じタイトルの本や iPad でも読書ができることを紹介する。



DAISY 図書の便利さにびっくり・・・



DAISY 図書で読書を楽しむ児童生徒

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 学校司書は、児童生徒が選びやすいように DAISY 図書の整備を行う。
- 学校司書は、DAISY 図書と同じタイトルの図書を準備し、紹介する。
- 司書教諭は、学校司書や担任と相談して、全員で視聴する DAISY 図書を選び、紹介する。
- 司書教諭、学校司書は、興味・関心が持てるような DAISY 図書を個々の児童生徒に紹介する。

★指導のポイント

- ◆ 児童生徒が選びやすい環境設定を行う。表紙の絵がわかるカタログや実際の本があると便利である。
- ◆ 全員で視聴する DAISY 図書は、児童生徒の実態を考慮しながら、なるべく生活年齢に合ったものがよい。
- ◆ 使い方に慣れるまで、継続した指導が必要である。

資料

- ・ DAISY 図書
- ・ DAISY 図書一覧表（選びやすいようにリスト化したもの）
- ・ DAISY 図書と同じタイトルの図書（紙媒体）
- ・ iPad と iPad 用の電子データ

伝えよう

～ビブリオバトル 編～

重複障がい（知的・肢体）
高等部 国語「伝えよう」
資料の活用・読書指導

ねらい

- 紹介したい本を選び、伝えたい内容を整理して、相手にわかりやすく話すことができる。
- 本の紹介を聞いて、疑問に思ったことを質問することで、より詳しく知ろうとすることができる。

学 習 展 開

- ① 「ビブリオバトル」について知る。
- ② 夏休みの課題で選んだ本を含め、図書館を利用するなどして紹介したい本を決定し、ワークシートに書く。
- ③ 教師の話聞いて、発表の仕方や伝え方、発表時間のイメージを持ち、よりわかりやすく伝えられるよう内容を整理し、個別練習をする。
- ④ ビブリオバトルをする。
時間内にわかりやすく本を紹介したり、友達の発表に質問したりする。
- ⑤ 活動を振り返り、発表で良かった点、改善点などを考える。興味を持った紹介された本や関連本は学校図書館で借りられることを知る。



好きな写真を指さし説明する生徒



好きな場面を読んで伝える生徒

◆学校司書の関わり

- 生徒の選書を支援する。
- ビブリオバトルで紹介する本を提供する。
- 教材研究・関連図書を取り寄せる。
- ビブリオバトルに参加する。
- ビブリオバトルの様子や教員の廊下掲示を職員向けメールマガジンで伝える。

★指導のポイント

- ◆ 読書に親しみ、読書の幅をひろげるために学校図書館を活用する。
- ◆ 学校司書に相談すると選書やリクエストに応じてもらえることを伝える。
- ◆ ワークシートを活用して発表内容をまとめる。
- ◆ 掲示やメルマガ等で学習の様子を伝える。

資料

「ビブリオバトル入門」（情報科学技術協会）、「ビブリオバトルを楽しもう」/粕谷亮美（さ・え・ら書房）、
「特急おべんとう号」/岡田よしとか（福音館書店）、「王さまと九人のきょうだい」/君島久子（福音館書店）、
「ブライアン・ジョーンズ」/ローラ・ジャクソン（大栄出版）、「風と共に去りぬ」/マーガレット・ミ
ッチェル（新潮社）、「亡霊は夜歩く」/はやみねかおる（講談社）、「米軍機ハンドブック」（原書房）

読書の秋！～〇〇新聞を作ろう～

知的障がい 中学部 2 年
生活単元学習
利用指導・資料の活用

ねらい

- 自分が調べたいことが書かれている本をさがす。
- 本の中から新聞に書きたいことを決めて、絵や写真、簡単な文で新聞を作り、紹介する。

学 習 展 開

- ① 昨年度の新聞を提示して、新聞のイメージが持てるようにし、何についての新聞を作りたいかテーマを決める。
- ② テーマをもとに、新聞に書きたい内容について書かれている本をさがす。
- ③ 調べ学習の進め方の手順書を見ながら、絵や写真、簡単な文で新聞づくりをする。
- ④ 新聞を紹介し、わかったことや感想を発表する。



「ぼくのマリンワールド新聞」
「すきなたべもの新聞」
「色々マーク新聞」

★指導のポイント

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 学校司書は担任と相談し、生徒の実態に合ったわかりやすい資料を準備する。
- 司書教諭は担任と相談し、生徒の実態に応じて、調べ学習の手順書を作成し、指導する。
- 担任は、司書教諭や学校司書と相談しながら、生徒の興味・関心や個別の指導計画のねらいなども考慮して、生徒と一緒にテーマを決める。
- 司書教諭、学校司書は、TTとして授業に入り、調べ学習を支援する。

- ◆ ルビがふってある、絵や写真がたくさん載っているなど、生徒の実態に合った資料の準備が大切である。
- ◆ 内容がわかりづらい時は、わかりやすい言葉に置き換える。
- ◆ 事前にNDC分類について学習しておくとうい。
- ◆ 学校図書館に資料がない時には、生徒が自分で学校司書に依頼するようにする。

資料

個々のテーマについてわかりやすく書かれている資料

「マーク・標識」などの図鑑 「水族館の生き物」「動物」などの図鑑

「マリンワールド」のパンフレット「たべもの」の図鑑「くだもの絵カード」など

公共図書館へ行こう！

～公共図書館の利用の仕方を知ろう～

知的障がい 中学部1年
生活単元学習
利用指導

ねらい

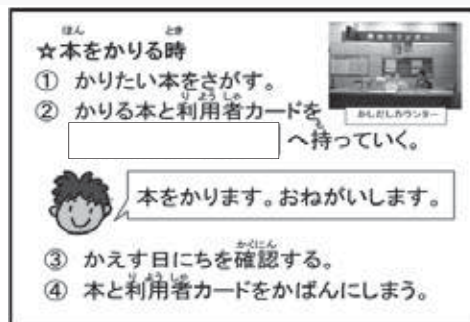
- 公共図書館は何をすることで、どんなところか、大体的見通しを持つとともに実際の校外学習に向けて期待感を持つ。
- 公共図書館の利用の仕方や本の借り方・返し方を知る。

学 習 展 開

- ① 公共図書館は何をすることで、どんなものがあるのか、パワーポイント資料を使って説明する。
- ② 実際の本の借り方や返し方について知り、ワークシートにまとめる。
- ③ 公共図書館を利用する時のマナーやルールについてクイズ形式で考える。
- ④ 実際に公共図書館に行った時に借りたい本や見学したいことを考えて、ワークシートに書く。



公共図書館の写真を使って学校司書が説明



公共図書館の本の借り方（ワークシート）

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 学校司書は、公共図書館の司書と連携して、パワーポイント資料を作成する。ＴＴで授業に入り、資料を使って公共図書館の紹介をする。
- 司書教諭は、ＴＴで授業に入り、本の借り方や返し方などについて説明する。
- 担任は、生徒の実態に応じてマナーやルールについてクイズ形式で指導する。
- 司書教諭と担任は、ワークシートの形式について相談する。

★指導のポイント

- ◆ 事前に簡単にNDC分類について学習しておくといよい。
- ◆ 公共図書館のイメージを持ちやすいように視覚に訴える資料やワークシートを使用する。
- ◆ 公共図書館の利用（利用者カードの有無・利用頻度など）について事前事後とも保護者と連携しながら進めていくことが大切である。

資料

- ・ 公共図書館についてのパワーポイント資料
- ・ 図書館でのルールやマナーが書かれている資料

読んで調べて伝えよう！

～調べ学習からレポート・自由研究作成まで～

聴覚障がい 小学部3年
国語 「自然のかくし絵」
資料の活用・利用指導

ねらい

- 図書館で虫や生き物の「かくし絵・保護色」に関連した図書を探し出し、「生き物の身の隠し方」「保護色とは何か」について、正しく読み取る。
- 調べて分かったことや自分の考えを整理して、読む人に分かりやすく伝えられるようなレポートの構成を考える。

学 習 展 開

- ① 「かくし絵・保護色」とは何かについて、電子黒板を使用し、聴覚障がいを有する児童でも目で見て理解しやすいよう画像を用い、イメージをふくらませる。
- ② 図書館にて、司書教諭・司書とともに「かくし絵・保護色」について書かれている図書を探し（昆虫の本が4類であることも理解する）、ワークシートに記入する。
- ③ 調べたことを、さらに「調べて書こう、わたしのレポート」の単元に活用し、レポート作成へ繋げる。
- ④ 「観察する」・「本で調べる」手段を選択し、図書館に行き、再度調べた上でレポートを作成する。
- ⑤ レポートを作成し、児童自身も興味を持ち、夏休みの自由研究にて、より深く調べることに発展させる。



①電子黒板を使用し、イメージをふくらませる。



②図書館で調べる



⑤自由研究の作成へ

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 事前に学校司書は司書教諭と相談し、資料収集や資料の準備を行う。
- 司書教諭は、図書館内の図書を使い、事前に学習中の語彙（＝「保護色」の説明など）を広げるための資料を作成する。
- 司書教諭は、児童の実態に合った調べ活動ができるようにワークシートの作成を行う。

★指導のポイント

- ◆ はじめに、「かくし絵・保護色」について、画像を使用し、教科書の内容を補助しておく。
- ◆ 自分が調べる内容をきちんと理解させ、「生きもの（4類）」の書架に辿りつけるよう導く。（困っている場合は、学校司書が支援する。）
- ◆ 本単元を後の単元「調べて書こう、わたしのレポート」に活用し、最終的に興味を持った部分を掘り下げ、理科の単元「夏休みの自由研究」に発展させる。

資料

「自然のかくし絵」/矢島稔（偕成社）、「海の擬態生物」/伊藤勝敏（誠文堂新光社）、「むしたちのさくせん」/宮武頼夫（福音館）、「花になったカマキリ」/海野和男（新日本出版社）、「教科書に出てくる生きもの観察図鑑①昆虫」（学研教育出版）、「学校のまわりの生きものずかん」シリーズ（ポプラ社）他、昆虫について書かれている事典や4類の図書

小・中および中・高の図書館連携

～児童生徒と本をつなげる～

中学校区の学校司書

ねらい

- 読書に親しみ、自ら図書館を活用し、本と共に学び続ける活動を小学校から中学校へ、中学校から高校へ橋渡しをする。
- 本を介して小中が交流を楽しむ。

取 り 組 み 内 容

- ① 小中図書館運営方針の共有
 - ・ 図書館の学び方指導体系表
 - ・ イメージキャラクター作成
 - ・ 郷土の特色を生かした継続的調べ学習
 - ・ 郷土の伝説や民話を守り継ぐ
- ② 学校司書で小中図書館の情報交換
(図書館見学・図書便り・ベストリーダー)
- ③ 中学生が小学生へ手作り絵本の読み聞かせ
- ④ 中学生が作成したPOP・読書紹介箱・本の帯を読書月間中に小学校へ展示
- ⑤ 小学6年生が中学校の図書館を体験
 - ・ 中学校の本を手にとって読む
 - ・ 「中学校の君へ贈る 100 冊」のしおりをプレゼント
 - ・ 小中の学校司書が協力して生涯読書の大切さを紙芝居風に作り紹介
- ⑥ 卒業前の小学6年生に中学校の図書館からのメッセージ(図書だよりに掲載)

○ 中高校の図書館連携

- ・ 卒業前の中学3年生に各高等学校の図書館からのメッセージ(図書だよりに掲載)



小中3人の学校司書
作成の手作り紙芝居
「生涯パラパラ読書」



中学生が小学生に読み聞かせ

★企画～実施の過程

- ◆ 企画・立案(議事録作成)
- ◆ 司書教諭に報告・相談
- ◆ 管理職に報告
- ◆ 校内分掌で提案・承諾
- ◆ 職員会で共通理解
- ◆ 小中学校間で了解
- ◆ 実施



小中の学校司書が図書館の必要性を紹介

米子市の学校図書館支援

～年9回の学校図書館研修会を通して～

特 徴

- 本市では、毎年、年9回の学校図書館研修会を実施している。
そのうち2回は学校司書だけでなく、司書教諭と合同で研修会を行い、個々のスキルアップとともに図書館業務の統一を図っている。

◆司書教諭と学校司書の合同研修

- 年2回（6月・11月）の実施
 - 県外講師による公開授業・講義等
（平成26年度：追手門学院小講師 多賀一郎氏）
（平成27年度：上土幌中学校教諭 石川 晋氏）
 - 「ワールドカフェ」「ギャラリートーク」等を取り入れた交流型研修会（写真はその様子）
 - 各校による実践発表
 - ・ 授業と図書館をつなぐブックトーク
 - ・ 読書活動の充実に向けた取組
 - 特別支援教育の視点に立った学校図書館研修
 - ・ 配慮を要する児童生徒へのための支援
 - ・ マルチメディアデジの活用等
（県立図書館学校図書感支援員、講師）



交流型研修会の様子

★市立図書館との連携

- ◆ 市の公用車で学校に図書を配本・回収
 - ・ リクエスト貸出：授業、個人学習、読書用等の図書を週4回、公用車によるメール便にて配本回収
 - ・ 長期貸出：学期ごとの長期貸出の実施
- ◆ 市立図書館の職員との連携・協力
 - ・ 各研修会への参加ならびに協力
- ◆ 図書館見学・職場体験学習の受入
 - ・ 施設案内、本の探し方・調べ方、読み聞かせ、ストーリーテリングの実施
 - ・ 中学生の職場体験学習の受入
- ◆ 「ふるさと米子探検隊」の発行
 - ・ 地域について調べるためのブックレット
 - ・ 各小中学校の教室に配付

◆学校司書研修会

- 年7回の実施
 - 全体研修会5回
 - ・ 市の国際交流員による韓国語・日本語の読み聞かせ
 - ・ 4部会による協議
（研修部・おたすけ手帳部・広報部・総務部の4部会）
 - ・ 県立図書館の学校図書館支援員による講話
 - ・ 市の人権政策課による講演ならびに演習
 - 同規模校研修会1回
 - 中学校区研修会1回
 - ・ 小中一貫教育の推進

伯耆町の学校図書館支援

～伯耆町教育振興会「図書館教育部」の充実～

特徴

○本町では、町教育振興会の専門部会に「図書館教育部」を設け（部員は、司書教諭、学校司書、町立図書館職員、図書館教育担当保育士、公民館職員、教育委員会事務局）、町立図書館と学校図書館・保育所の相互連携を推進し、図書館経営、図書館教育の充実を図っている。

◆学校図書館の環境整備

●全学校に学校司書の配置

町内の全小中学校に学校司書を配置し、司書教諭と連携して図書館教育の充実を図る。

●児童・生徒・教員に役立つ図書館運営

本と子どもをつなぐ仕掛けについて、表示やディスプレイの工夫を、町立図書館職員と学校司書が互いに交流しアドバイスをし合っている。

●図書館活動報告書の作成

毎月、各学校図書館の活動記録を作成し、町全体で集約している。



鳥取市立中ノ郷中学校視察



図書館活用カリキュラム実践研修

◆研修・連絡会

●小中学校司書研修会

年度当初に、学校司書を対象に教育委員会主催で開催する。内容は、「学校司書の役割とやりがい」及びその具体的な業務等について研修する。

●図書館教育部の研修

図書館教育部（部長：町立図書館長、副部長：教頭、幹事：教育委員会）として、年間3～5回の研修を行う。部員の対象が幅広いため、全体のものや対象を絞ったものを行っている。図書館機能の充実のためには、学校図書館に関わる者のスキルアップが大切になってくるので、先進図書館視察をしたり、お互いの図書館経営を見あったりしてモチベーションを高める工夫をしている。

（例）

・ブックトーク研修（対象：司書教諭、学校司書、公共図書館職員）

・図書館活用カリキュラムの作成・実践

（対象：司書教諭、学校司書、公共図書館職員）

・本の修繕研修（対象：全部員）

・本のポップ作り研修（対象：全部員）

・選書・読み聞かせ研修（対象：図書館教育担当保育士等）

・視察研修（H25：松江市学校図書館センター・松江市立城北小学校、鳥取県図書館協会視察参加、H27：県立図書館・鳥取市立中ノ郷中学校）

◆町立図書館との連携

◆本の搬送

Web 予約等で依頼のあった本を、毎週1回（金曜日）全小中学校へ定期巡回便として届けている。

◆巡回便連絡会

学校司書と町立図書館職員で巡回便についての話し合いを年1回行い、スムーズな巡回ができる工夫をしている。

◆朝読書・お話会の支援

月1回～4回（学校の実態に合わせて）、学校の朝読書や休憩時間のお話会に読み聞かせボランティアと協力して支援している。

◆大型絵本やエプロンシアター、本の修繕グッズの貸出

学校図書館に、所蔵していない物を貸出し、図書館教育活動の充実を支援している。